

## 平成29年度第1回天童市教育委員会について（報告）

日 時 平成29年4月20日（木） 午前10時  
場 所 教育委員会 第一会議室

### <教育長あいさつ>

---

これまでは、年度初めに教職員を全員集めて教育長訓示を行っていましたが。しかし、年度初めは学校現場も忙しい時期であり、様々なことを考慮して、全職員を集めることをやめました。そのかわり、16校全部回っての訓示を行いました。その中で、「自立、共生、信頼」を「自立、共生、創造」に変えたことと、自立、共生は不変なのだということを話しました。「論語」より孔子の言葉に「忠恕（ちゅうじょ）」とあり、忠は真心で、恕は思いやりです。自分が忠実に誠実に生きることによって他人を思いやる心を合わせ持つということです。まさに、自立、共生です。また、ルソーの書「エミール」では、「自分のためと公共のため、折り合いにくい二つを両立」するのが「真に自由な主体」であるとしています。さらに、アドラーが心理学の本に、行動面の目標として「①自立すること。②社会と調和して暮らせること。」と掲げており、みんな同じことを言っているわけで、まさに「自立」と「共生」は永遠のテーマということです。ぜひ先生方には子供達が自立し共生できる力をもてるよう育ててほしいし、教員もそうあってほしい。そして、自立、共生により新しいことにチャレンジする「創造」に向かってほしいと訓示しました。

「不登校」のことを考えてみました。本市は不登校に対して大切に取り組んできましたが、残念なことに、今年の小中学校の不登校は昨年から15名増の61名となりました。引き籠りの子が躓くと、一生大変になります。高校に行っても対人関係に対応できず躓き、大人になっても仕事をすることに問題が起きて、安定した収入が得られづらくなるからです。今、不登校の対応が昔より良くなっています。それは、相談員を含めて組織として対応している良さといえます。しかし、そこには落とし穴もあり、誰の責任なのかという部分が弱いのかということです。また、今は「多様な生き方」が認められていますが、この子はこれでいいんだとの思いが、子供の変わろうとするきっかけを無いものにしてしまっていないだろうか、とも考えています。

「不登校」をうむ背景を考えた時に、1つには個に対するしっかりとした理解とその成長を思い浮かべることが大事であると考えています。2つには「きっかけ」を作らない指導が大事なんでしょうと思います。例えば、いじめであったり、先生による強い指導で、心が強く萎縮してしまったり、学校に行きたくない気持ちになってしまうことなどがあるでしょう。3つには学びから脱落してしまうことは大きいと考えています。例えば1年生で休んだので、2年生の勉強がわからないために学校に行きたく無くなってしまうことです。学びを続けられる指導が大事だと考えます。丁寧な指導に心がけ、不登校者数の増加を抑えていきたいと考えています。

年度始めにあたり、教育委員会内の4課の今年度の基本となる施策ができ、それを推進していくことが基本だろうと思っておりますので、皆様方からのご協力をお願いいたします。

< 議 事 >

---

議第1号 天童市教育研究所運営委員会委員の委嘱について

<可決する>

審議経過

質疑なし

< 議 事 >

---

議第2号 天童市理科教育センター運営委員会委員の委嘱について

<可決する>

審議経過

質疑なし

< 議 事 >

---

議第3号 天童市学校評議員の委嘱について

<可決する>

審議経過

質疑なし

教育長：議事は以上です。委員の皆様から何かありませんか。無いようですので議事を終了します。

<報 告>

---

- ・天童市青少年指導センター指導委員の委嘱について（生涯学習課）
- ・天童市立公民館分館及び分館主事の委嘱について（生涯学習課）

教育長：他には無いようですので、第1回教育委員会会議を終了します。